

ように、全交流電源を喪失した時点で、これはシビアアクシデント事象に該当し得ると判断しておりますので、いちいちこういうような手順書間の移行の議論というのは、私の頭の中では飛んでいますね。

○質問者 特に、これはアクシデントマネジメントガイドを使うとか、そういう判断をしてというよりも、この時系列を見ると、交流電源が喪失したというのが15時37分にあつて、ここに17時12分、アクシデントマネジメント対策としてというのが書いてあるんですね。だから、この間に特に、これはAMGを適用すべきではないかという議論とかは、特にないんですか。当然全交流電源が喪失すれば、その次に事態が進展していくところを考えると、それを視野に入れて、当然動かなければいけないだろうということなんですかね。

○回答者 はい、そうです。

○質問者 それから、紙の上では、こういうことが書いてあるけれども、それをそのままのっとして、この基準に当てはまるかどうかみたいなのはされていないんですか。

○回答者 していません。それは、多分、素人はそうするんでしょうけれども、普通考えれば、こういう手順の移行だとか、そういう議論ではないと思います。事象として。

○質問者 ちなみに、今回よりも前に、こういう14年以降に、AMGとか、これはないですか。

○回答者 ないです。

○質問者 これは、1F以外のところ。

○回答者 どこでもないです。

○質問者 では、東電以外でも。

○回答者 ないです。オールジャパン初めてです。

○質問者 では、最初の事象がこれで、いざやってみると、いちいちこんな炉心損傷開始を弾き出して、これを見ると、ずっと継続的にγ線量なんかを計測して、そこから割り出した炉心損傷割合なんかを見て、これはもうという感じですね。でも、必ずしもそういうふうにはっていないということですね。

○回答者 はい。

○質問者 それから、復旧手順ガイドラインというのがあって、これは炉心損傷の有無によらず、支援組織が、残留熱除去系及び非常用ディーゼル発電機の復旧は必要と判断したときに、導入することとしているのであって、この復旧手順ガイドラインというのは、何か使いましたか。

○回答者 ここも、要するに紙に書いてあることは、紙に書くところ書くんでしょうけれども、実際、現場の判断としては、DGも動いていない、RHRも動いていないという中で、このガイドラインがどうのこうののではなくて、すぐにそれに対応するようなシビアな状況になっているわけですから、それに対応するような手順に移行というよりも、それに対応するしかないという判断をしたということです。

○質問者 そのときに、今、ここで聞いているのは、要するにこの AMG のようなものが実態にそぐわないような状況なんだったら、この AMG 自体を東電と言わず、日本全体として、もう少し更に見直しが必要になるんじゃないかということにもなってくるので、それで、実態はどうだったのかなというところなんですね。

24 ページのところの非常用ディーゼル発電機の復旧というのは、例えばガイドラインとかで書いてあるんだけど、これが使えるか、使えないかとか、そういう検討は特にされていない。

○回答者 勿論、使えるようにすると、要するに、まず、津波なんですけれども、DG がだめになったのがわからないわけですね。こちらで DG だめですよと、あと津波が来ているんですけども、その津波の状況も、免震重要棟ではわからないんですね。その時点で、だから、DG の復旧は勿論視野に入っているわけです。最初に入っているんですが、まず、現場に行って DG の状況を確認してこないと、復旧できるかどうかもわからないという状況なんですね。だから、そうこうしている間に、津波で水が入ってきて、水浸しだという話が入ってきて、個々の DG がどうかというよりも、基本的には、それで水に浸かってしまったら、DG というのは、基本的には発電機が付いていますから、基本的には、そこはもう使えないというふうに思うのが普通であって、それがより保守的な考え方になるわけで、DG が使えないというのを前提に考えないといけないと、こういう判断になる。

○質問者 それで、水で使えなくなったという状況の場合には、例えば水を抜いて、再度起動可能に。

○回答者 勿論、それは当然のことながら、そうすることは考えたんですけども、余りにも津波で来た水ですから、前にも実は同じような事象がありまして、平成3年に1号機でありまして、そのときも、もう水に浸かってしまうと、しばらく使えないというのはよくわかっていたんですね。あのときは海水ですか、それに浸かると、半年ぐらいかかっているんですよ。全部ばらして、乾燥して、部品も交換しないと使えないと。海水に浸かってしまったものは、早期復旧なんかできませんと。

○質問者 その平成3年のとき水に浸かったというのは、原因は何だったんですか。

○回答者 これは、1号機の海水系配管がありまして、この話は、ちゃんと事故報告出ていますから、見ていただければいいんですけども、原子炉建屋がこうあって、タービンがこうあるわけですけども、ここの RHR というシステムがありますね。ここの RHR を熱交換機に RHRS という海水系を引いてきているんですね。それで、ごめんなさい、1号だったら RHR がなくて、海水系の配管がこうあって、ここで1号機の RHR は、格納容器冷却系というか、別の CCS というシステムであれなんですけれども、RHR と同じだと思ってください。これがリターンして海に返っていくわけですけども、ここの配管が土の中に埋まっていたんです。この土の中に埋まっているままタービンビルが入ってきまして、このタービンビルの中で海水系なものですから、水がここで漏えいしてしまって、水浸しになってしまったんです。